

研修報告書

2/3

講師名	お茶の水女子大学名誉教授 日本子ども学会理事長 榊原 洋一氏
日時・場所	2020年2月1日(土) 15:00~17:00 AP市ヶ谷 Cルーム
<p>【研修題目】:乳幼児の発達について・発達障害について</p> <p>【研修内容・学んだ事・感想】</p> <p>今回の講義で、日々長い時間一緒に過ごす子どもたちの発達に、大きな影響を与える立場であることの責任の重さをあらためて痛感しました。子どもたちを6年間、保護者の代わりに育てているということを念頭に置いていきます。また保育者や友だちとの会話や行動が言葉等の発達にはなによりも大切であり、モデルとなる保育者としてより良い言葉遣いや振る舞いを心がけていきたいと思います。保育者や友だちとの関りがほとんど園生活にある狭い世界の中で過ごす乳幼児にとって、他者から与えられる自己肯定感が、いずれは自分自身の認識により自己肯定感高めていくことを知り、将来に渡っても保育園生活が性格形成の重要な土台であると思いました。さまざまな場面での子どもの行動を丁寧に観察して、褒め処を見逃さないようにしていきたいです。</p> <p>発達障害のお話では、保護者にとって「発達障害」と診断されることは、子どもの将来を思い消せない大きな不安を抱えることであるのに、親との面談とチェックリスト、一時の行動観察で、簡単に診断する医師による誤診が2割あるということに衝撃を受けました。それと共に専門家でも診断の難しいということを実感しました。幼児期でも個性や育成環境など健常児との境目はわかりづらく、成長と共に軽減したり、後退したりとさまざまで、家庭と園と専門機関の連携で、慎重に診断されなくてはならないのではないかと思います。診断は支援の方向性を決めやすいですが、焦らずにその子にとってその時期に適切な発達の援助を考えていくことを第一にしていきたいと感じました。</p>	